

介護、バリアフリー ジェンダー平等

みなさんの願い、区政に届けてきました

区政に送り出していただいて4年。障害者・高齢者のヘルパー17年の経験を生かし、現場の声を区政に届けてきました。訪問ヘルパーのPCR検査を全都に先がけて実現することができました。また、トランスジェンダーであることを公表して活動し、「人間の尊厳が大切にされる社会を」と公約に掲げた「パートナーシップ制度」が東京都で実現したことは、うれしい前進です。「誰もが輝く新宿、安心して暮らせる新宿」へ、ひき続き区政で働かせてください。

日本共産党

新宿区議会議員・介護福祉士

たかつき

高月まな

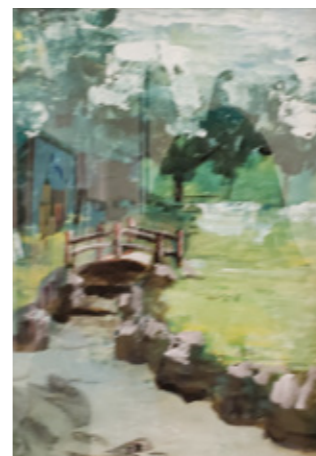
お気軽にご相談ください 080-5876-2337 まで

明るい新宿

2023年春号外

発行●明るい新宿社 新宿区北新宿1-30-26 篠崎修之

日本共産党・高月まな区議の活動を紹介します。



高月まな画「公園の風景」

趣味は、絵画、音楽(弦楽器とピアノ)、読書

子どもの頃から絵を描くことに熱中。高校は芸術科に進み、美術大学をめざしていた時期もありました。今も絵を描いています。

ブラームスやベートーベンなどの交響曲にあこがれて、アマチュアオーケストラに入って、バイオリンやビオラを弾いていました。

学生の頃は、村上春樹やトーマス・マン、現代思想の本などをよく読んでいました。大学と大学院ではヘーゲル哲学やフェミニズム、ジェンダー論を研究していました。

高月まなプロフィール

1973年東京都生まれ、静岡県で育つ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。障害者・高齢者のヘルパー17年。介護福祉士。2019年から新宿区議。大久保1丁目在住。

相手の話をじっくり聞く高月さん

相手の話をじっくりと聞くことができる高月さん。相手が話しやすいように適切に質問したり、やさしく相づちをうっています。介護福祉士として現場を知っていることもしっかり生きています。

都議会議員 大山とも子



さらなる活躍に期待

数少ないトランスジェンダーの地方議員となり、エポックメーカーとして脚光を浴びながらも、介護ヘルパーの経験も活かし、堅実に地域住民のために活動してきた高月さんのさらなる活躍に期待します。

元区議会議員 阿部早苗



戸山ハイツ1～32号棟、
戸山3丁目2～16のみなさん
私に倍する支援を
高月まなさんへ

区議会議員 近藤なつ子



■高月まな区議の活動地域

大久保1～2丁目、新宿1～7丁目、戸山ハイツ、戸山3丁目2～16

介護ヘルパー17年の経験生かし

高月まな



区議になる前、高齢者の訪問介護やデイサービスの現場で働いてきました。介護職は低賃金重労働で、同僚が次々と辞めていきました。深刻な人材不足で、ヘルパーも高齢化しています。区議になって4年、介護現場の声を区政に届けてきました。軽度の要介護者の保険はずしや、利用者負担増など、介護保険制度の改善を許さず、高齢者の在宅生活を守るため、これからもがんばります。

訪問ヘルパーのPCR検査、全都に先がけ実現

コロナ感染が広がる2020年9月、都が高齢者施設や障害者施設の職員への定期的なPCR検査を実施しましたが、訪問ヘルパーなど在宅サービス事業者は除外されていました。

区議会の代表質問で、「ヘルパーは日々感染の不安と恐怖とたたかっている。定期的なPCR検査が必要。都の制度をつかって、訪問ヘルパーにも検査を」と求めました。すると、区長が「検討する」と答弁。傍聴席で聞いていた訪問ヘルパーは、「よかった！」。

その年の12月から、在宅サービス事業者への定期的なPCR検査が始まりました。

介護の願い実現へ頑張る高月区議

介護制度の改善から、訪問ヘルパーの自転車駐輪問題まで、広く区民の要求を取り上げて活動されている高月まなさんを応援しています。

佐藤時恵さん(元ケアマネージャー、戸山ハイツ)

ヘルパー経験者ならではの質問に、他党派議員も「さすがだね」

「高齢者のオムツの交換が1日に何回もある。助成額の引き上げを」「高齢者は、ところみ剤がないと水が気管支に入ってしまったって危険。高額なところみ剤に補助を」。区議会でヘルパー経験者ならではの質問に、みんな耳を傾けます。

区の職員は、「いま委員から詳しく説明がありましたように…」と前置きしながら答弁。他会派の議員も、「介護の経験や知識にもとづいての質問は、さすがだね」と評価しています。



点字ブロック延長、手すりなどバリアフリーすすめる

叔母が知的障害者で、祖父母が他界した後、母が介護。「親亡き後」の障害者の生活の大変さを見てきました。その後、重度身体障害者の介護を17年続けるなかで、交通バリアフリーが大きな課題であることを痛感。区議として取り組んできました。

●4年前の区議選、東新宿駅前で宣伝中に、「フィオーレ健診クリニックに行く目の不自由な人のために、点字ブロックを延長してほしい」と要望が寄せられました。当選直後に都に要望し、2020年4月に実現。さらに、その先の東新宿保健センターまでの延長を、区に要請しています。

●区議になる前、「百人町3丁目の坂が急で、下る時にこわい」という声が寄せられました。すぐに区役所の担当課に手すりを要望しましたが、「難しい」という返事。その後、高齢者が転倒して救急搬送される事故が起きました。区議会で取り上げて再度要求。2022年3月、ついに手すりが設置されました。

●区議会で「車いす使用者が一人でも電車に乗降できるように、ホームと車両の段差・隙間の解消を求めました。」「対策は必要と認識し、進捗状況を確認していく」という答弁でした。その後、区が2021年11月に策定した「移動等円滑化促進方針」に、「可能な限りホームと車両の段差や隙間を縮小すること」が位置づけられました。



ホームと電車の間隙を縮小

「パラリンピックのレガシーを唱えるなら」と訴え、区スポーツ施設の障害者の利用料が無料に

日本共産党区議団がくり返し要求してきた施策です。2021年10月の区議会で、「23区のうち12区が無料化している。パラリンピックのレガシーである『障害者理解』を唱える新宿区としても無料にすべき」と迫りました。区はその年の12月に、「来年度から免除する方向」と答弁。2022年4月から無料になりました。



次の4年、これを実現したい!

- 介護保険料・利用料の引き下げ。特養ホーム増設
- ところみ剤の購入助成
- コロナ禍の介護事業者に対する支援金・感染対策
- 勤務中の訪問介護員の自転車を撤去しない仕組みを
- 障害者グループホーム等のスピーディな増設
- 新宿御苑前駅大木戸門方面口をバリアフリーに
- 要支援サービス(総合事業)を使いやすく

パートナーシップ制度公約に掲げ、世論を広げ、東京都で実現！

次は新宿区で

同性カップルやその子どもも家族と認めるパートナーシップ・ファミリーシップ制度。4年前の区議選で「同性カップルも区営住宅に申し込みできるようにしてほしい」と切実な声が寄せられ、公約に掲げて当選。最初の区議会で実現を求めました。当時、全国で21自治体がこの制度をつくっていました。しかし、新宿区は「国において結論を出すべき」と背を向けました。

2020年1月、制度の実現を求める区民・団体に結集をよびかけました。2021年には、東京都に実現を求めるネット署名運動が起こり、1万8千筆以上が集まりました。

●新宿区議会で5会派14人で条例提案

新宿区議会では2021年2月に、5会派14人の議員が「パートナーシップ・ファミリーシップ条例案」を提出。日本共産党を代表して、「当事者の願いが強くなっている。ぜひ実現を」と訴えました。自民、公明、新宿未来の会の反対で否決されましたが、反対した会派の議員からも「こういう制度は必要だ」との声が。

2022年11月、世論と運動の力で東京都パートナーシップ宣誓制度が実現し、スタートしました。全国では245自治体で実現しています（同年12月現在）。次は、新宿区独自の異性カップルも含めた制度実現へがんばります。



新宿区パートナーシップ制度学習会を開催(2021年10月)

次の4年、これを実現したい！

- 異性カップルを含む新宿区独自のパートナーシップ・ファミリーシップ制度を
- 施設のトイレに生理用品設置
- 性搾取のないまち・新宿に。区として性搾取を許さない、女性・若者の人権

- 子どもの人権を守るため、中学校で制服・私服選択制に。校則の見直し
- を守る姿勢を示し、独自にシエルターの整備、相談窓口の周知、女性相談員の増員



母・高月フミコ

高月まなが歩んできた道

- 生まれた時は男性でしたが、小学生の頃、自分の性別に違和感をもち始めました。中学生になると、制服が苦痛でした。しかし、誰にも言っはいけないことと思って、本当の気持ちは胸の奥に押し込めました。大学院の頃には社会生活上のギャップに悩み、「生きている意味がない」とひきこもりがちに。
- 在学中、「介助スタッフ募集」のチラシを見て、障害者の介助を始めました。大学院修了後、非正規のヘルパーに。「こんな自分でも誰かの役に立つんだ」と思えるようになりました。
- 2005年、障害者に負担増を強いる「障害者自立支援法」成立の時、当事者が国会前に集まって「私たち抜きに私たちのことを決めるな」と訴える姿に、「私も声を上げて行動できる人になりたい」と思いました。
- 2009年頃、日本共産党員の青年と知りあい

に。自分のセクシュアリティについての悩みを打ち明けると、真剣に向きあってくれました。学習会に参加し、「政策に納得。真実を追求する党」だとわかり、党员になりました。

- 2011年、性別適合手術を受け、戸籍上も女性になりました。その後、人生に対してどんどん前向きになることができました。2019年、「人間の尊厳が大切にされる社会をつくりたい」と、トランスジェンダーであることをカミングアウトして区議に立候補し、当選しました。

前。二度目は望む生き方に合わせた名前。本当の名前をつけるのが遅くなってごめんね。今、あなたが自分の声と言葉で自分を表現している姿を見ることができて本当にうれしいです。ありがとう。

今までいっぱい辛いこと、傷を受けることがあったと思います。高校の時には「死にたい」とも言っていました。何回も人生の転機がありましたが、その度に優しくなっていました。

私はこの人に二度、命名しました。一度目は男の子の名

誰もが安心して暮らせる新宿へ

高月まな



区議として、区民のみなさんの声を大切に、実現するために努力してきました。誰もが安心して暮らせる新宿をつくるため、ひき続き区政で働かせてください。

陳情受け、ねばり強く要求し実現！

保育園 下の子の育休中、2歳になるまで 上の子が在園可能に

新宿区では、上の子が保育園に通っていて、下の子が生まれて親が育児休業をとっている場合は、1年半を過ぎたら、上の子は保育園を退園しなければいけませんでした。

2021年6月、「コロナ禍で復職が困難。在園期間を延長してほしい」という陳情が区議会に提出されました。

「育児・介護休業法の改正で、2歳まで育休を延長できるように



なった。陳情を採択して制度を見直すべき」と主張しましたが、他の党派と意見が一致せず、採択できませんでした。

10月の区議会でも再び取り上げると、区は「検討しないことはない」と答弁。11月の区議会でも日本共産党の代表質問に、区はついに「認める方向で検討する」と答弁。2022年4月から延長が実現しました。

住民のみなさんの声を受け、現地調査して要請

戸山ハイツに街灯設置。「夜道が明るくなった！」



戸山ハイツの住民のみなさんから、「夜道が暗く

て、歩くのが怖い」と声が上がっていました。

2022年1月、大山とも子都議、都の公園緑地事務所の職員と

一緒に、現地を調査して、街灯の設置を要請しました。

5月に33号棟と35号棟の間の坂道に、足元を照らすタイプの街灯が設置されました(写真)。

みんな喜んでいます 34号棟 Hさん

以前からハイツ周辺の薄暗さは防犯上問題とっていました。高月区議の働きかけで街灯がついて、近所の皆さんも喜んでいきます。さらに23号棟などにも広げていただけたらと期待しています。

次の4年、これを実現したい!

■若者や学生が安心して住み続けられるまち・新宿に

- 公営住宅に若い世代の入居を増やす。戸山ハイツのエレベーターがない5階建て住宅の4階・5階に若い世代も入れるように都に求めるとともに、新宿区の地元割り当て枠で若い世代も入れるようにする
- 若者向け家賃助成の復活
- 奨学金返還支援

■安心して自転車に乗れるまち・新宿に

- 駐輪場の増設。定期利用の拡大。利用料の負担軽減。ラック幅を広げる。民間まかせでなく、区が責任をもって。安心して自転車に乗れるまちに

■コロナ禍、物価高から区民のくらしを守る

- 課税所得者にも給付金を
- 中小企業に電気代助成
- 国保料1人1万円引き下げ。18歳以下は半額に
- 小中学校の給食費無償化

■神宮外苑の樹木を守る

■羽田新飛行ルート撤回



新宿区は、統一協会関係団体の「後援」取り消せ。
自民党は、癒着を断ち切れ。

軍事費2倍化ストップ! 憲法いかし平和外交を。
ウクライナに平和を!

話すだけでも心が落ち着く高月さん

高月まなさんには、いつもお世話になっています。公営住宅申込みやコロナ給付金、等々、相談に快く聞き入って、アドバイス等、話すだけでも心が落ち着きます。私達の味方です。これからもよろしくです。皆で応援しましょう。ガンバ〜!♥

みえちゃん(新宿1丁目、中華飯店)

願い実現へ一緒に行動する高月さん

人に優しく、寄り添ってくれるのが高月まな区議です。「歩道の段差や青信号の時間が短く、歩くのに怖くて外出を控える」と高齢者や車いす使用者で話題になっていました。そこで高月区議と一緒に街ウォッチングして、区の担当課と懇談を取り付けていただきました。後日、歩きやすきれいに整備されました。2期目をめざし、私も応援します。

江川祐子さん(新宿6丁目、新日本婦人の会)

